

アジア土木学協会連合協議会(ACCCEC)に ITSに関する技術委員会が設置される

ACCCEC TCC16 委員長
牧野 浩志 (東京大学 准教授)

アジア土木学協会連合協議会(ACCCEC: Asian Civil Engineering Coordinating Council)は、3月1日、東京で開催された技術委員会調整会議において、土木学会実践的ITS委員会が提案した「アジア太平洋地域におけるITS(高度道路交通システム)を用いた都市交通問題の解決」をテーマとするTCC16(委員長:筆者)の設置を了承した。

ACCCECは、3年ごとに開催されるアジア土木技術国際会議(Civil Engineering Conference in Asian Region: CECAR)を主催し、多国間連携のもとアジア地域が抱える社会資本整備や土木技術に関する課題を討議し問題解決を図ることを目的に、1999年9月27日に発足した連合組織である。現在の加盟国は、JSCCE(日本)、ASCCE(アメリカ)、PICCE(フィリピン)、CICHE(台湾)、KSCCE(韓国)、EA(オーストラリア)、VIFCEA(ベトナム)、MACE(モンゴル)、HAKI(インドネシア)、ICEI(イ

ンド)の10ヶ国である。

TCC16では、アジア各国の共通の課題である、経済発展と自動車の普及に伴った急激な都市化による交通渋滞、事故、環境悪化といった都市交通問題に対して、最先端のICT(情報通信技術)を活用したITS適用による解決策を整理し、各国の経済発展と国土開発の段階に応じたITSの導入方法について議論することを目的としている。ITSでは、土木工学だけでなく、情報工学、通信工学、機械工学などさまざまな専門分野の知見の交換による交通課題の解決策の模索が不可欠である。そのため、アジア各国の多くの技術者の参加を促し、ITS導入のための技術的課題について共通認識を醸成し、持続的な経済発展のための低コストで継続的に運用できるITSの導入を議論していくこととしている。

TCC16の正式の発足の前に、2012年4月17日、マレーシアのクアラルンプールにおいて開催されたアジア太平洋地域ITSフォーラムのスペシャルセッション(座長:上條

俊介東京大学准教授)で関係者によるブレミーティングが行われた。Prof. Hiroshi Makino(Univ. of Tokyo, Japan)、Prof. Sorawit Narupiti(Chulalongkorn Univ., Thailand)、Prof. Jason Chang(National Taiwan Univ., Taiwan)、Prof. Edward Chung(Queensland Univ. of Tech., Australia)、Prof. Ahmad Farhan Mohd Sadullah(Univ. Sains Malaysia, Malaysia)の5名が登壇し、各国のITSの導入状況、ITSによる交通問題解決の効果、ITS導入の課題について発表があった。アジア諸国でICTを活用した交通問題解決に対してさまざまなチャレンジが行われており、世界的にもITSは実導入の段階に入ったという印象を受けた。

TCC16の設置と活動方針についての議論では、都市交通問題を解決していくための手段としてITSが重要であり、ITSの導入の課題は各国共通のものと固有のものがあるが、各国の成功事例を共有していくことはアジア各国のITS導入の参考になるとの共通認識を得た。今後、2013年8月にジャカルタで行われるCECARを目標に議論を進めていき、東京でのITS世界会議(2013年10月)で成果を公開するというスケジュール案も示された。

日本においては実践的ITS委員会の国際WGで議論を進めていく予定であり、国内の専門家の積極的な参加を期待している。詳しくはJSCCEの国際センターまでご連絡をいただきたい。



写真1 セッション会場の様子



写真2 セッション関係者集合写真